

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900805		
法人名	北海道医療株式会社		
事業所名	グループホームハッピーヴィラしんまち		
所在地	旭川市6条西1丁目1番2号		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町村受理日	平成22年11月16日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172900805&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172900805&amp;SCD=320</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成22年10月29日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別性を尊重し、自尊心を傷つけない対応と各入居者様の望みを出来る限り叶えられる様、個別ケアに重点を置き、各入居者様、家族様にとって納得のゆく充実した生活がおくれるよう常に考慮し、配慮しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線沿いの商業施設や住宅街の中に開設されている母体医療法人が運営する、鉄筋コンクリート造りの1ユニットのグループホームです。地域交流会を実施して、民生委員や家族、町内の人達に参加を呼びかけて火災避難訓練や焼肉バーベキューを開催したり、保育園児との交流等を通じて地域に密着した活動に努めています。また、美瑛の丘や買い物公園見物、七夕祭りや盆踊り参加、散歩や近隣のスーパーへの買い物、旭岳へのドライブ等戸外に出かける機会を多く作ったり、市主催の高齢者作品展に貼り絵、刺し子などの作品を出展するなど楽しみごとへの支援も行われています。職員の研修の機会については、法人内の看護・介護等の研修会に参加したり、外部講師を招いて介護用品についての内部研修を行う等段階に応じた研修の充実に取り組んでいて、一人ひとりの職員の資格取得への意欲も高くケアサービスの質の向上に取り組んでいる姿が伺えました。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の 理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念・個人の尊重について、どこまでを尊重したらよいか？などを常に話し合い意識しながら日頃のケアに取り組んでいる	事業所独自の理念をつくりあげ、朝礼時やミーティングを通じて話し合い、理念を共有し、その実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	催しものや避難訓練などを一緒に行いながら地域にグループホームがあるということをご理解していただけるよう又、共に穏やかな生活がおくれるよう工夫している。	地域交流会を実施して、民生委員や家族、町内の人達に参加を呼びかけて火災避難訓練や焼肉バーベキューを開催したり、保育園児との交流等を通じて日常的な交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて認知症の方との接し方や行方不明時の対策などを話し、協力が得られるよう取り組んでいる		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	ホーム全体の報告をし意見をいただき交えながらサービス・ケアに活かしている。	運営推進会議では、接遇委員会の取り組みや防災対策、地域交流会開催等について具体的に話し合っている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域との交流の回り方や勤務体制について、教えていただいたりと連携を図れるようにしている。	市担当者や包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換を行い、連携を深めるように努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームにおいての身体拘束になりえることや色々な視点から話しあい、意識、自己の対応について振り返りながら日頃のケアに活かしている	身体拘束廃止委員会、接遇委員会で管理者及び職員の認識の共有が行われている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホームにおいての身体拘束や虐待になりえることや色々な視点から話しあい、意識、自己の対応について振り返りながら日頃のケアに活かしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用されている方がいないこともあり、今だ勉強ができておらず、最近入所された方が以前利用されていたこともあり、今後勉強してゆきたい		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重々に説明をおこなった上でご家族様の要望や、ご本人様にとって良い支援を考慮し、常に話しあっている		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人様からの意見を伺い、参考にしながら反省やケアに活かしている。又、ご家族様からも、ご本人様が話されていたことなど教えていただき、要望も交えながら日頃のケアに取り組んでいる。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等のご意見箱を設置している。また、市町村等の相談窓口の啓発ポスター等も掲示している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時や会議の時などに意見、提案を伺い、話しあい、その上で考慮し業務遂行に活かせるようにしている。	申し送りや会議で、職員の意見や要望、提案を聞くよう機会を設けている。また、そこでの意見を運営に反映している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	来年度の試験受験にむけて勤務体制、工夫していただいた。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	系列内の勉強会など参加をし知識と連携を図り、共に業務遂行をして行く体勢である。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列内での勉強会や交流会などで情報交換や交流を図れる機会があり、共に業務遂行を図る上での体勢が作られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報シートと日頃の会話、様子から要望等伺い、職員間、ご家族と共に話しあい、出来る限り希望、要望にこたえられるよう納得のゆく生活をおくっていただけるよう配慮している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様からの意見を伺い、参考にしながら反省やケアに活かしている。又、ご家族様からもご本人様が話されていたことなど話していただき、要望も交えながら日頃のケアに取り組んでいる。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様にとっての必要な支援を見極めた上でご家族様の意見を伺いながらサービス提供に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にお食事作りや掃除などを行いながら昔馴染の仕方など教えていただいたりと家族に近い関係(馴れ馴れしくならぬよう)意識しながら関係作りにつとめている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様とご家族様の関係を見極めた上で中和がとれるよう又、中に入りすぎないよう配慮しながら対等な関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の今迄培ってきたものを大切に継続し、ご本人様にとって、良い状態を考慮しながら、ご家族様とも話しあい、その上で個別ケアに取り組んでいる。	バーベキュー等のホーム主催行事や地域の盆踊り、七夕祭り参加等の行事を通じて馴染みの人との交流や美瑛や買い物公園等戸外に出かけられる機会を多くもてるように努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同で何か作業を行ったり会話をしながら同じ居住で生活をする者としてお互いのことを思いやり家族に近い関係を築いていただけるような状況、環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様よりご本人様の様子などを教えていただいたり又、おたよりなどで連絡をとっている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者様の話を伺い思いや意向、要望など出来る限り叶えられるよう努めている	センター方式を活用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。また、職員間で情報の共有が行われている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各入居者様の生活歴を元に自宅におられた時に似たような状況に近づけられるよう考慮しながら対応している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者様の過ごし方を把握し、出来ることや趣味活動の促しなど、無理にならぬよう促している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員の視点からその方にあったケア・支援をあげてその後、ご家族様と各入居者様の現状に必要な支援、ご家族様の要望を伺った上で、介護計画作成をしている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や思いを反映するようにしている。また、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア、対応見直し表を作成し、各入居者にとって良いケアを記入し、申し送り時や会議などに対応している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各入居者様のその時の状況から必要なニーズ、ケアを考え、職員間で話しあい、その後、ご家族様に相談の上で、その時々状況にあったサービスケア支援をおこなっている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各入居者様のもつ残存能力などを把握しながらその方に合った促しをしている。又、各入居者様にあった必要な資源としてボランティアさんによるギター演奏など依頼し、聴きながら一緒に唄われ楽しんでいただいている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の要望に応じ、馴染みのある病院受診を考慮しご本人様、ご家族様が築いてきた関係を継続出来る様、又、現状受診をしている病院との関係も保ちながら対応している。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、医師の往診や看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の訪問看護と月1回の在宅診療を受ける前に経過様子表に各入居者様の診ていただきたい所を記入し、相談をしながらその方に合った心身のケアに取り組んでいる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に看護師、相談員と話し合いながら退院時にそなえた対応を考慮し連携をとっている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	各入居者様の今後の様子などからご家族様と話し合い対応に努めている。	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各入居者様のおこりえることや事故発生時の対応について危険性のあるニーズをスタッフ会議などで話し合い、日頃の業務遂行に活かし、取り組んでいる。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中と夜の想定で避難訓練をおこない危険性、避難誘導について話し合いながら地域や運営推進会議の中でも意見をいただいた上で参考にし、地域の方と一緒に避難訓練をおこなった。	消防署の協力を得て、年2回避難訓練を実施し、設備の定期点検も行われている。また、本年12月までにスプリンクラーの設置が完了する予定。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩を意識しながら失礼のない言葉かけや会話をしている。	身体拘束廃止委員会、接遇委員会を通じて、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から思っていることや、要望を伺いながらご本人様が自己決定しやすいよう働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の業務、予定などにより職員の都合で叶えることができなかったということにならぬよう配慮し取り組んでいる。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お出掛け時など一緒に服を選んだり又、自らも身だしなみについて意識されるよう(髭剃り)など促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食材を刻んだり又、各入居者の好みを把握し、ご本人様の意向に合う食事の配慮をしている。又、かたづけなど一緒に行い、自宅にいた時と近い状況を考慮し、会話をもちいて楽しんでいただきながらおこなっている。	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食材の調理、食事、片付けをしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量、飲用量を訪問看護師と相談をしながら栄養バランス調整をしている。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔内きれいにしないと疾患をまねきやすいことを話しながら口腔ケア、行なっている。又、出来る所はご自分でおこなっていただき不十分な所は介助し口腔内、健康管理に努めている。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者様の排泄パターンを把握した上で促し方を考慮し、パット交換をさせていただきながら清潔保持が保てるようにしている。又、ご家族様と話し合い、促し内容について相談をし、ご本人様にとって良い対応をしている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援している。また、介護用品のメーカーより外部講師を招いて講習会を実施している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	担当医、看護師と相談をしながら排便間隔調整をおこなっている。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様と余暇時を持つ時間も考慮した上で、どちらも納得のゆく時間を過ごせるよう考慮しながら取り組んでいる。又、各入居者様に合わせた入浴時の要望についても考慮しながら取り組んでいる。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、入浴チェック表で職員間で情報の共有をしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前にホットミルクを飲用していただき（訪問看護師と話しあった上で）飲用していただき安眠、寝つきがよくなるよう配慮している。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様の薬の効能、副作用を把握し、その都度、訪問看護師と相談をしながら服薬管理に努めている。又、服薬ファイル表を作成し、入居者様自らも服薬意識されるよう印をつけていただき取り組んでいる。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様にあった活動を促し気分転換を図れるよう、又、入居者様が日頃の自己の仕事と意識し活気をもっていただけるよう無理のないよう促し、取り組んでいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様が以前行かれていた場所や要望を伺い、ご家族様と相談の上で、ご友人のいる所や、行きたい場所などへ行ける機会をもった。	美瑛の丘や買い物公園見物、七夕祭りや盆踊り参加、散歩や近隣のスーパーへの買い物、旭岳へのドライブ等戸外に出かける機会を多く作っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物や美容院などへ行き、手持ち金から支払われ自宅にいた時と同じ感覚をもっていただけるようご家族様とも話した上で所持金を所有されている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と相談の上で手紙もやり取りをし、気持ちの上で安心感をもてるよう、又、活気になるよう考慮し対応している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内の温度を把握し入居者様にも伺いながら空気の入替えなどをおこなっている。	リビングや廊下の壁には、季節毎の飾りつけや職員のその日の勤務状況、趣味が分かるように掲示等が行われ、温度、湿度管理等利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチと本棚を置き、休んで見たりできるよう、又、新聞や写真など掲示し、見ていただきながら入居者様同士で会話が弾めるような居住空間を考慮し取り組んでいる。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた道具を用いて生活しやすい居住空間作りをしている。	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ドアに掲示物をさげ、読んでいただいたり又、安全面に配慮しながら取り組んでいる。		



## 目標達成計画

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	業務におわれ、事業所内での勉強会がおろそかになっている	急変時など戸惑うことなく素早く全職員、対応出来る様、知識を熟知し、日頃の業務に活かせられるよう、又、全職員、自信を持ち業務遂行、対応できるようにする。	シュミレーションを交えた勉強を行い、実践に活かせられるよう又、頻繁に勉強会が行なえるよう取り組んでゆきたい。	3ヶ月
2	34	上記に同じ	上記に同じ	上記に同じ	3ヶ月
3	27	記録記入において、入居者様のその時の様子や発言の仕方により、職員の客観的視点で捉えた記入になっている。又、結果から応じた対応策(工夫について)も各職員間で情報が行き渡っていないことが多々ある。	ご本人様、ご家族様など誰が見ても支障のないよう又、各職員、記録を見た際、良い影響を受けて自己の記録記入の仕方について再度認識し今後の記録記入に活かせられるようにする。	記録記入については申し送り時や会議などで話し、どうしてこのような記入の仕方になったのか？から記録の記入の仕方について再度勉強をしてゆく	1ヶ月
4	38	各入居者様の望みを出来る限り叶えられるよう個別ケアを意識し取り組んでいるが、業務におわれて入居者様の即時の要望におこたえすることが困難な時もある。	各入居者様が納得の行く生活をおくれるよう又、職員一同、各入居者様にとって良い支援、ケア、要望をどのようにして叶えてあげられるか？人事としてとらえるのではなく、自己の身に置き換えた時のこととして考えてゆけるようにする。	業務遂行について入居者様とふれあう時間を多くもつことを重視し、業務事変について考慮してゆく。	2ヶ月
5	8	毎年、権利擁護については勉強をしようといながらも現状で利用されている方がいないこともあり、現状に必要な課題ばかりが優先し、権利擁護、おろそかになっている。	今後必要性のある内容から、権利擁護について熟知する	権利擁護の資料を作り勉強会を行い又、権利擁護に関わる研修会などに参加をし、勉強してゆく。	4ヶ月

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。